Vol. ５３９ 令和元年９月

ハマ発明 NEWS

NPO 法人 横浜発明振興会

今　月　の　行　事

第 610 回 ハマ発明教室

と　き　令和元年９月８日（日）
　　ＰＭ　１：００～４：３０
ところ　関内駅前ホール（加瀬の貸し会議室）
横浜市中区尾上町 4-56-2 加瀬ビル 154 4 階
※７月から使用している会場です。建物には「関内駅前ホール」の表記はありません。

1. 作品発表とディスカッション、発明の卵
2. 発明研究会
   ハマハツ博士のキャラクター登録と論議他
3. 発表作品表彰、お知らせ、その他

10 月のハマ発明教室　予告

と　き　令和元年１０月１３日（日）
　　ＰＭ　１：００～４:３０
ところ　関内駅前ホール（加瀬の貸し会議室）
横浜市中区尾上町 4-56-2 加瀬ビル 154 4 階

1. 作品発表とディスカッション
2. 発明研究会　　テーマ 未定
3. 発表作品表彰、お知らせ、その他

「よこはま夢ファンド」に団体登録

この度、当会は「よこはま夢ファンド」に団体登録をしました。「よこはま夢ファンド」（正式名称、横浜市市民活動推進基金）は、国のふるさと納税制度を活用した制度で、寄附をしていただくことによって、地域や社会を良くしていく活動をしている市民活動を支援するものです。この基金には、次の二つの特色があります。

特色１　支援したいＮＰＯ法人の団体名や活動分野を希望できます。

希望できる活動分野

① 保健・福祉・こども（保健・医療、福祉、子どもの健全育成）
② まちづくり・環境（まちづくり、環境、災害救援・地域安全、市民活動支援、農漁村又は中山間地域振興）
③ 文化・スポーツ（生涯学習・社会教育、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション、科学技術）
④ 国際・人権・平和（国際交流・国際協力、人権・平和、男女共同参画）
⑤ 経済・観光振興（情報化社会、経済活動・消費者の保護、職業能力開発・雇用機会拡充、観光振興）

（２頁に続く）

＝＝＝＝＝＝＝＝もく　じ＝＝＝＝＝＝＝

研究会・講演の案内 ・・・・・・・・・・・・・・・２
ハマ発明教室報告　　・・・・・・・・・・・・・２，３
情報提供、お知らせ、・・・・・・・・・・・・・１，３，４

特色２　寄附していただくと、税制上の優遇措置が受けられます。

ふるさと納税額（寄附金額）（例：個人の方の場合）

所得税の控除額	住民税の控除額	自己負担額
（寄附金額−2,000円） × 所得税の税率	基本分（寄附金額-2,000円）×10%（住民税の税率） ＋ 特例分　住民税所得割の2割が上限	2,000円

横浜市市民活動支援専門アドバイザー派遣事業や会計、税務、労務等の講座等にも活用

当会を指定してご寄附をしていただけましたら幸甚です。 どうぞよろしくお願いいたします。

○９月のハマ発明教室のご案内

第一部　作品発表とディスカッション、発明の卵
第二部　発明研究会
　　ハマ発博士のキャラクター登録と論議他
第三部　発表作品表彰、お知らせ、その他

第609回ハマ発明教室(日曜発明教室)報告

関内駅前ホール(加瀬の貸し会議室)、8 月 18 日に開催しました。出席者 17 名

○第一部　ハマ発明教室作品発表

作　品　名	発　表　者
① ドリルビットケースのアダプター	藤岡　治樹氏
② ビン洗いブラシ	大川　元一氏
③ 冷蔵庫用しぼり器付きチューブ調味料ケース	北楯　征夫氏

投票の結果、次の方に賞が決まりました。

『最優秀賞』　9 票

前月の発表に続き、「発明の卵」で提起された課題解消のための作品でした。植毛型のブラシの柄の部分にカバーを付け、そのカバーをスライドさせるアイデアは秀逸です。

『奨励賞』

① ドリルビットケースのアダプター
　　藤岡　治樹氏

市販のドリルビットケースにアダプターを取付けて、ビット類を探し回らなくてすむようにされました。ご自身で愛用されているとのことです。

③ 冷蔵庫用しぼり器付きチューブ調味料ケース
　　北楯　征夫氏

チューブ入り調味料を取り出しやすいように一ヶ所に収納する作品でした。しぼり器は一体化しない方が良いとの意見がありました。

○第二部　発明研究会

（１）先願特許調査支援の報告　　小林芳人氏

昨年 12 月、小林氏から支援の提案が行なわれ、具体的な会員への先願特許調査の支援活動が 2 月から始まりました。今回、これまでの支援状況について計 5 件の支援についての実施内容の概要説明がありました。

この活動の目指すところは、会員自身の特許調査レベルの向上にありますが、まだ期待通りのレベルに至っていないとのことです。そこで、無償での支援活動を延長して、今後の様子を見ていくとのことです。先願調査では、新規性や進歩性の判断を行うのに耐えうる調査方法が必要です。そのためにも特許検索の作業ノウハウを身につけていただきたいと思います。

(2) モニター活動の経過報告　　小林芳人氏

「生花の一輪挿しブローチ」のモニター活動を５月に始められ、三名のモニターから結果が得られたとのことです。その結果、モニターになった方に、花への興味やブローチの印象の良し悪しなどの回答を得て、販売するターゲットを絞り込むことができたとのことです。今後、モニター活動は会として他の会員作品に対して広めていきたいと思います。

(3)自由テーマ　　加藤吉郎氏

①「会員の要望や困りごと」
昨年 11 月の発明よろず相談会での意見集約から約１年が経ち、再度会員から要望や意見を聞くことにしました。
今回、特許の明細書の作成に関する意見がでました。明細書を書くのが大変で、論理的に理解しやすく作成するのが難しいということです。その対応として、地元の中小企業センターに足を運び、特許相談しながら明細書を作成されている方もおられます。明細書は特許を取得するために技術的内容を十分盛り込む必要があります。拒絶されないように権利範囲を広げるには相当の技術知識を必要とするため、個人での明細書作成には限界があるようです。
次に、②「アイデア品の売り先や方法」
これは昨年の会員からの要望事項です。　そこで、日本で一番ダウンロード数の多いフリマアプリ「メルカリ」に関する簡単な紹介がありました。メルカリはオンライン上でフリーマーケットのように物品の売買が行えるスマートフォン用アプリです。スマホで簡単に始められ、会費がいらないことが人気のある理由です。今後、発明研究会では、「メルカリ」について詳しく知ってもらう企画を予定しています。また、発明研究会・幹事の桑井旭氏から会員の鈴木満江氏の発明品についての近況報告がありました。「幸せの黄色いたすき」は、千葉県の障害者団体と共同で販売し、また、「３ＷＡＹマスク」は、大阪の企業に権利を譲渡され、耳栓を付けて１２月から百円ショップのダイソーより販売されるとのことです。大変意欲的に取り組んでおられます。

〇発見コーナー「発明の卵」　　斎木　隆士氏

冒頭、司会の大庭實氏より作品発表の出品件数を増やすためのアイデア捻出の情報提供の企画として『こんな卵（発明ネタ）がありました』をスローガンに掲げ、今後も斎木氏から時代の流れに沿った社会が必要とする発明ネタ情報の提供を受けて、会員がそれからヒントを得て、アイデアを捻出し発明に結びつけてもらいたいとの説明がありました。この企画を「発明の卵」と名付け、斎木氏から提供された今月の卵は、“持ち運び可能な電気を使わない手回しハンディ扇風機”でした。例えば、はずみ車との組み合わせでアイデアを捻出するヒントからモノを創造する楽しさを享受することができました。一方、7 月に提供された卵のうち、「チューブ入り食品の冷蔵庫内の収納器具」と「四角いグラス底の清掃具」に対して今回、作品発表がありました。また、「野菜の鮮度を長持ちさせるフレッシュキーパー」に対して、市販品を購入し自宅でキャベツを使っての効果の検証結果を飛び入りで報告していただいた。この企画により、新しい発見が生れ、作品発表の数が増えて教室の活性化に結び付くことを期待します。

衝撃の技術 来遺産に

携帯ＣＤプレーヤー、Ｇショック……

国立科学博物館は３日､未来に引き継ぐ科技術の資料「未来技術遺産」に、ソニーが開発した初代ポータブルＣＤプレーヤーなど２６件を新たに選んだと発表した。

世界初のポータブルＣＤプレーヤーだったソニーの「Ｄ―50」は 1984 年に発売された。その後の同社の「ＣＤウォークマン」の原型で、ＣＤの普及の起爆剤となった。ソニーが 82 年に発売した最初の据え置き型ＣＤプレーヤー「ＣＤＰ―101」とともに、未来技術遺産に登録される。

このほか、衝撃に強い腕時計「Ｇショック」(83 年、カシオ計算機）の最初の機種や、省エネに欠かせない制御機器「インバーター」を備えた家庭用エアコン（81 年、東京芝浦電気＝現東芝キヤリア）なども選ばれた。

未来技術遺産は、暮らしや文化に影響を与えた科学技術の成果を後世に伝えるため、２００８年度に登録が始まった。登録件数は今回で計２８５件となる。　（読売新聞 9 月 3 日）

介護用品と発明

小峰一男

７年前から母親を在宅介護して、その間、沢山の介護用品のお世話になってきました。介護用品の分野は、スプーンのような小さなものからベッドのような大きなものまで実に多種多様で、アイデア商品の宝庫といっても過言ではありません。なので、介護用品の考案は発明家の腕の見せ所と言いたいところですが、実際には、介護したり介護されたりという経験が無いと、どういうものが必要とされているかよくわからず、介護者や被介護者の話を聞いて試作して、それを使ってもらって感想を聞き修正を加える、というやり方になろうかと思います。その点、自身が介護の当事者だと、こういうものが欲しいということを日々の生活で実感していますから、発明考案の経験など無くても比較的容易にアイデアを思いつくのではないでしょうか。結局、介護用品は、こういうものが欲しいという介護の現場の声が商品に反映されたもので､「必要は発明の母」という言葉がまさにぴったりです。

介護用品で特徴的だと思うのは、実用性一辺倒ということです。遊び心がなく、その点が残念です。発明にユーモア発明というものがあります。何かの役に立つわけではないけれど、人の心を楽しくする発明です。介護用品にこそ、そうしたものが求められると思います。介護では心のケアがよく問題になりますが､介護のストレスを和らげてくれる、楽しくて面白い介護用品があればよいのにといつも思っています。

○展示会情報

①第 46 回国際福祉機器展 H.C.R 2019

9 月 25 日～27 日
10 時～17 時 30 分　最終日 16 時まで
東京ビッグサイト 西 1~4、南 1~4
要登録 無料

②人口知能/ビジネス AI 2019

同時開催: **デジタルものづくり 2019**
10 月 9 日～7 日　10 時～17 時 30 分
東京ビッグサイト　西 1~4
(事前登録無料)

③第 23 回身近なヒント発明展 展示会

10 月 11 日～13 日　10 時～17 時
発明学会ビル・３Ｆ展示ホール 入場無料

④第 32 回品川夢さん橋 2019

10 月 12 日～14 日　10 時～16 時
会場　大崎駅周辺

今年も会員の有志が参加します。 出品を希望されるアイデア作品がありましたら、事務局までご連絡ください。

○事務局だより

猛暑の盛りもやっと過ぎ、朝晩はめっきり涼しくなってきました。暑い時期は発明教室の出席は控えると言っておられた会員もいましたが、担当の役員方の努力で、発明教室はますます充実してきましたので､会員の皆様、教室へのご出席をお願いします。

・事務局担当

曜 日	担当者	曜 日	担当者
月	(　　)	木	(　　)
火	山岸　隆	金	(　　)
水	石井　栄	土	小峰 一男

来訪の時は、電話にて駐在確認をお願いします。
ＦＡＸまたはメールも ご利用ください。

事務所 TEL/FAX： ０４５－６６４－９０７０
E-ﾒｰﾙ：info@yokohama-hatsumei.com